

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.48

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

日本英学史学会中国・四国支部 高松研究例会のご案内

平年より暖かい日が続いているためか、もみじの便りも遅れているようですが、会員の皆さまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために多大なるご支援ならびにご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

本年度第2回(通算第55回)研究例会を、来る12月2日(土)に香川大学(高松市)にて開催する運びとなりましたので、ここにご案内を申し上げます。

香川大学では、広島支部の時代に一度、初めて瀬戸内海を渡って支部例会を開催したことがありました。その以前に、この12月例会は広島市以外の地で開催という方向がだんだんと定着し、広島県内の他地域、あるいは中国地方の他県においてもご当地の会員に会場をお世話いただいておりますので、その延長線上にたまたま高松があったということでしょうか。ただ、瀬戸大橋によってつながったとは言え、海を越えるということにはそれなりに大きな意味があったかと思います。すなわち、これが中国・四国支部への拡大発展のきっかけとなったのかも知れないということです。そのように考えると、皆さまを再び高松にお迎えすることは、広島支部から中国・四国支部へという変革が、名ばかりでなく実をもともなう発展であると言うことができ、心より歓迎を申し上げる所以です。多くの方々のご来高をお待ち申し上げます。

日本英学史学会中国・四国支部

支部長 竹中龍範

**日本英学史学会中国・四国支部
平成18年度第2回(通算55回)
研究例会プログラム**

日時：平成18年12月2日(土)
午後1時30分受付開始

場所：香川大学教育学部
〒760-8522 高松市幸町1-1
TEL: 087-832-1523 (竹中研究室)

受付 (13:30-)

開会行事 (14:00-)
・支部長挨拶

研究発表 (①14:10-15:10, ②15:30-16:30)

①「岩国英国語学所に関する研究(1)
——教師ステーベンスとその教え子たち」
保坂芳男 (立命館大学)

(休憩 15:10-15:30)

②「オーラル・メソッド——もう一つの実践」
竹中龍範 (香川大学)

閉会行事 (16:30-)
・副支部長挨拶

懇親忘年会 (17:30-19:30)
会場：「ほった」
〒760-0040 高松市片原町8-1
TEL 087-851-2684

会費：5,000円

◆12月2日(土)の宿泊をご希望の方は、「ホテル川六(かわろく)エルステージ」が便利です。懇親会会場から徒歩5分。シングル1泊6,200円ですが、香川大学竹中先生の名前を伝えて申し込まれば、香川大学の法人契約料金が適用されて割引があります。インターネット割引より割安です。各自で直接お申し込みください。

〒760-0041 香川県高松市百間町1-2
TEL: 087-821-5666 FAX: 087-821-7301
ホームページ: <http://www.kawaroku.co.jp/>

交通案内 (JR高松駅より)

JR高徳線

高松駅1番もしくは3番ホームから乗車し、1駅、所要時間3分で、昭和町駅にて下車、東に向かい、市立図書館を過ぎて教育学部北門まで徒歩にて5~10分。高松駅発時刻は11:23、11:58、12:40、13:23、13:51、14:52があります。

バス

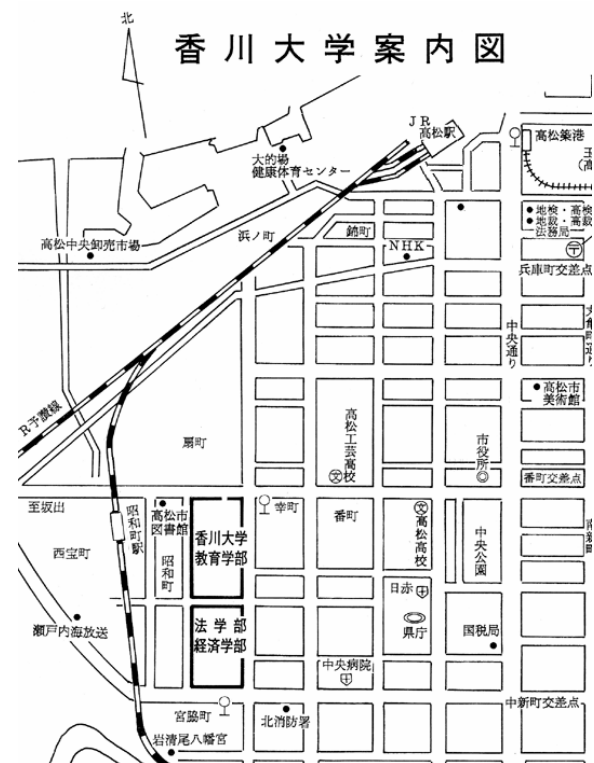
高松駅を出て正面左手のバス・ターミナル2番乗り場より、コトデンバス「弓弦羽(ユズリハ)」行き、もしくは「香西車庫」行きに乗り、15分程度で、宮脇町バス停にて下車、手前の信号を渡って、北に経済学部キャンパス・教育学部キャンパス沿いに歩き、大学正門(教育学部東門)まで5分程度。ただし、11:44発「弓弦羽」行きは昭和町・市図書館経由便につき、幸町バス停にて下車(所要時間10分程度)、進行方向に信号を渡って10数メートル先が教育学部北門。いずれも料金は180円。高松駅発時刻は11:29、11:44、12:14、12:29、12:54、13:24、13:54、14:24があります。

タクシー

高松駅から香川大学まで約10分、約700円。行き先を「教育学部北門」と伝えて下さい。

徒歩

高松駅から徒歩で25~30分です。



(香川大学HP <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/>より)

<お願い>

研究例会ならびに忘年懇親会のご出欠を、以下のいずれかの方法で11月22日(水)までにお知らせください。

(1)電子メール (umamoto@pu-hiroshima.ac.jp)

(2)別紙の申込用紙をファックス (0824-74-1725)、もしくは郵送 (送り先は用紙にあります)

※理事・会計監査の皆様には、理事会のご案内を同封しております (当日 12:30~)。こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

>> 事務局より

◇『英學史論叢』第10号原稿募集

中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第10号の刊行に向けて、会員の皆様のご積極的なご投稿をお待ちしております。

研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、多数のご応募をお願いいたします。

・ご投稿に際しては、本ページおよび次ページに掲載の「執筆要領」「標準書式」に従ってください。

・投稿の申込は、平成19年1月31日(水)までに事務局へメール (umamoto@pu-hiroshima.ac.jp)、または FAX (0824-74-1725) にてお知らせください。

・原稿提出の締切は平成19年2月20日(火) (消印有効) です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートへのご投稿は、正副計3部をお送りください。英学史随想、書評等の原稿は1部お送りください。

・昨年度同様、原稿の提出締切が従来よりも早くなっております。ご注意ください。

◇皆様の研究情報をお寄せください

会員の皆様の英学史研究に関する新刊、発表論文、講演、研究発表、市民講座、雑誌記事などの情報をお寄せください。ニューズレターでの紹介とともに、今後の研究例会企画の参考にさせていただきます。

◇会費納入のお礼とお願い

すでに多くの皆様より今年度の会費をご納入いただきました。厚くお礼申し上げます。未納の方には振り込み用紙を同封しております。行き違いとなりましたらご容赦ください。

◇論文投稿規程

今年度の総会にて、次の通り「執筆要領」及び「標準書式」の改定が承認されました。下線部が変更箇所です。

『英學史論叢』執筆要領

- ・『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
- ・研究論考・研究ノート、その他のものとも、原則として提出されたものをそのまま複写印刷するものとする。手書き、タイプライターやワープロによる印刷など、いずれも標準書式に従った完全原稿を提出するものとし、執筆者による校正は行わない。用紙は白紙を用いるものとし、原稿用紙等罫線のはいたものは受理しないことがある。
- ・研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および年次大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出し、編集委員会の査読を経て掲載の可否、書き直し等を決定するものとする。なお、編集委員会は必要に応じて編集委員以外の会員に査読を委嘱することができる。
- ・研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
- ・掲載決定後の最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。
- ・研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。
- ・その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および事務局・編集部への執筆依頼によるものとする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等、いずれも原則として2ページ以内とする。

『英学史論叢』標準書式

- ・用紙はB5判白紙を用い、上部に25mm、下部および左右に20mm、それぞれ余白をとる。
- ・本文は、10ポイントないし10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。
- ・本文第1ページに8行分をとって論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは4倍角文字ないし18~20ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
- ・本文中の見出しについては1行アキとし、番号を付して太字、あるいはゴシック体とするか、下線を施して見やすくする。
- ・注は、脚注、尾注のいずれも可とするが、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
- ・参考文献、引用文献は論文末に一括して示す。
- ・英字・数字はすべて半角文字とする。

>> 英学史全国ニュース

◇日本英学史学会第43回全国大会開催

10月21日(土)~10月23日(月)、東京都台東区民会館において全国大会が開催されました。本支部所属会員の研究発表は以下の通り。

- ・寺田芳徳「海軍教育における英学書籍の運命再考 — 旧海軍兵学校転用図書・東郷文庫の視点による文化資源考証の事例」
- ・竹中龍範「J. M. Dixonの英熟語辞典をめぐる」
- ・馬本 勉「広島中學校『英語之基礎』について」

◇『英学史研究』第39号

本支部所属会員の論文は以下の通り。

- ・田村道美「漱石と Cassell's National Library (2) — A. Pope, *Poems: 1700-1714*の書き込みを中心に」

◇日本英学史学会報 No.110 (9月1日発行)

本支部所属会員の執筆による記事は次の通り。

- ・宮田和子：<英学史散策> 「アヘンをめぐる宣教師たち」
- ・竹中龍範：<書評> 『日本の英語辞書と編纂者』 — 本邦英語辞書史研究の基礎資料
- ・田村道美：<英学史手帖> 齋藤一『帝国日本の英文学』

広島英学史の周辺(十四)

▼相談役の妹尾啓司先生より、頼山陽史跡資料館開館十一周年記念企画展「江戸の華 浮世絵展 ~ 妹尾コレクション・ちりめん絵の世界」をご紹介頂きました。パンフレットによると、木版刷の浮世絵を押し縮めた「ちりめん絵」は、織物の縮緬に似た「しわ」が寄っていることからそう呼ばれるそうです。江戸時代の終わりから明治時代にかけて盛んに製作され、明治時代には日本のお伽噺を紹介した「ちりめん本」も数多く発行されたとのこと。これらは外国人に珍重されたそうです。長年にわたって妹尾先生が収集されたコレクションの展示は、頼山陽記念館(広島市中区袋町5-15 TEL 082-542-7022 休館日は月曜)にて、11月19日(日)まで。▼広島県東部の府中市上下町では、企画展「岡田實麿」が開催されています。場所は上下歴史文化資料館(広島県府中市上下町上下1006 TEL 0847-62-3999 休館日は月曜)。この資料館は旧岡田邸を改装したもので、実麿は夏目漱石の後に第一高等学校の教授となった英文学者です。翻訳書、英文和訳・和文英訳・英文法の参考書、検定教科書等、多くの著書を残しています。ちなみに妹の美知代は田山花袋『蒲団』のモデルとして知られ、晩年を庄原で過ごしました。この「上下が生んだ偉大な英米文学者の業績とその生涯を紹介」する企画展は11月30日(木)まで。▼全国大会で浅草を訪ねました。大会会場前の「馬道通り」を横切ると、そこは浅草寺。観光客が一杯で、まるでお祭りのような賑わいでした。仲見世通で食べた「揚げおかき」、神谷バーの名物カクテル「デンキブラン」など、浅草の味も楽しむことができました。ちょっとレトロで庶民的な雰囲気の神谷バーは、文人たちが愛した明治13年創業の老舗。建物も大正期の建築とか。▼残暑の続いた今年の秋ですが、そろそろ温かいものが恋しい季節となりました。今年最初の「忘年会」は、高松の地でご一緒いたしましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No. 48

2006年11月10日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部